

年	組	名前
---	---	----

① 下の「ぶんぶんミニかいせつ」を読んで答えましょう。
 児童養護施設で暮らす人は、県内にどれくらいいますか。

② 女性が甚平を贈るようになったのはなぜでしょうか。

③ この女性に、施設の人や子どもたちはどんな気持ちを持っていますか。本文から読み取ってみましょう。

児童養護施設に毎夏届き20年



児童養護施設「森の木」に20年近く手作りの甚平を贈り続けてくれた女性に感謝する川野義人施設長（右）らと甚平を着て喜ぶ女児



「今年で最後」の旨がつけられていた手紙

「いつも僕たちのために甚平を作ってくれてありがとう」。大分市中尾の児童養護施設「森の木」には夏になると、手作りの甚平が届いている。贈り主の女性は名前も住所も名乗ることなく、20年近く続いてきたが、今年届いた甚平には、「高齢のため今度で最後にしたい」との手紙が添えられていた。職員、施設の子どもも「感謝の気持ちでいっぱい」と話している。

施設によると、甚平が届くようになったのは1999年ごろ。金池町にあった施設の前身のわかば園に「子どもに長浜神社の祭りで甚平を着せてあげたい」と女性の声で電話があり、幼児の人数や性別、身長な

甚平
ありがとう

名前分からぬ「高齢…今回で最後」贈り主の女性

子どもたちは市内の祭りに着て出掛け、新しい甚平が届くと前年の物をバジヤマ代わりにし、サイズが合わなくなるまで大事に着付けているという。甚平は柔らかくて気持ち良かった。いつも届くのが楽しみだった」と小学2年の男の子。保育士の岩上怜華さん23も「甚平を通して人とつながりや人を感じやることが大切さを感じてくれていたようだ」と喜ぶ。

今年、添えられていた手紙には、体力の限界で立ちが運くなったこと、今回で最後にしたい旨が記されていた。「老眼鏡に

どを聞かれたという。以来、2005年に青松園（勢家町）と統合し、現在地に移転後も毎年連絡があり、宅配便で人数分を送ってこれているという。

甚平は全て手作り。アニメキャラクターや乗り物などのプリント柄の布地がミシンで丁寧に縫われており、そろいのきんちゃく袋がセットになっている。今年も7月21日に7着届いた。

18歳までが入所 児童養護施設

2016.8.18



児童養護施設は、家族と過ごすことが難しい子どもたちが入所し、生活をする場所です。保護者との死別や保護者の離婚、虐待を受けたなどさまざまな理由で入所した子どもたちは、専門職員の支援を受けて暮らします。入所期間は、原則18歳まで。子どもたちは、施設から学校に登校します。

専門職員の支援受け生活

千人（最新値）の子どもたちが過ごしています。県内では9施設に約320人が暮らします。

施設には、いくつかの生活の形があります。10人以上の集団で暮らす子どももいますし、民間住宅を活用して少人数のグループで生活する子どももいます。県は、子どもたちがより家庭に近い環境で生活できるように、ケアをする単位の小規模化や里親制度などを推進しています。



©1976, 2015 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No. G961107